

消防だより

火の用心

Tokamachi Fire Department

No.77



平成25年2月25日



特集

救助工作車更新



火災による犠牲者多発

「非常事態宣言」発令

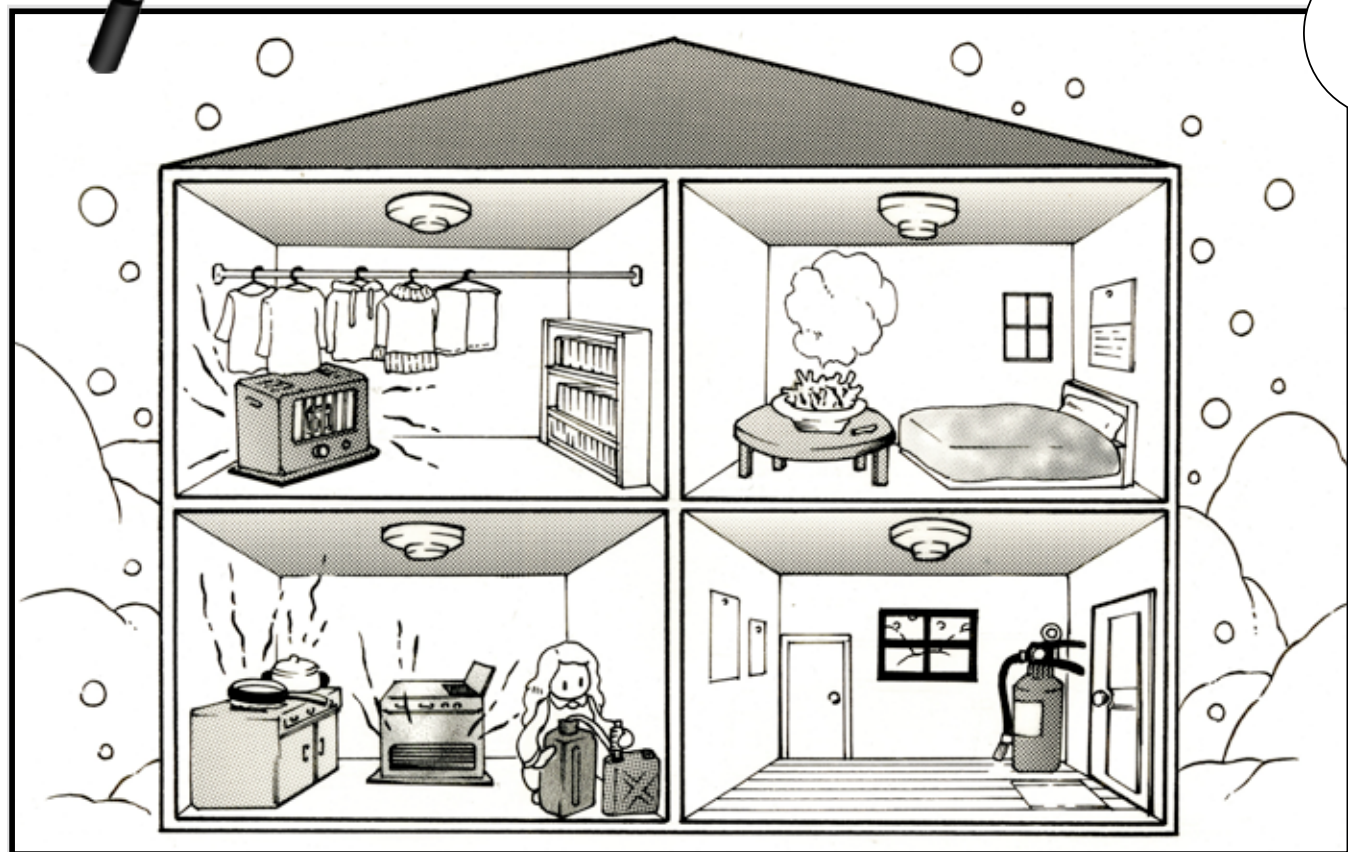
発令



今すぐ確認しませんか？

火災を起こさない！生命を守る！！チェックポイント

冬は火災の危険が多いよ！
やってみて！



《火災を起こさないために》

たばこの火は
確実に消していますか？

チェック

ストーブの上に洗濯物を干したり、
周囲に物を置いていませんか？

チェック

石油ストーブに給油するとき
火を消してから行っていますか？

チェック

こんろのそばを離れるとき
必ず火を消していますか？

チェック

《生命を守るために》

逃げ遅れを防ぐために
住宅用火災警報器を設置
していますか？

チェック

初期消火のために
消火器を設置していますか？

チェック

冬期間は避難口が
2方向以上ありますか？

チェック

一旦避難した家屋に戻るのは
絶対にやめましょう！



いざ！というときのために

お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制を確立しましょう！

火災による犠牲者多発！



※写真はイメージです

「非常事態宣言」

今冬、建物火災による
高齢者の死者が **4名** となっています
H 25.2.10 現在

今冬、建物火災が5件発生し、その内全焼火災が3件、半焼火災が1件と大きな被害をもたらしています。

特に、昨年暮れから年明けにかけて、立て続けに3件の建物火災が発生し、高齢者4名の尊い命が犠牲となっています。

火災は防げる災害です。火災を起こさないために、火災から生命を守るために次ページのチェックポイントを確認するとともに、今一度、ご自宅の火の元点検をしませんか？

火の用心をお願いします！



【側面】 オールシャッター式で、下部ステップは展開すると水平になり、資機材が取り出しやすくなっている



【車内】 後部座席の地図ボックスは倒すことができ、地図を開いて置いたり、メモをとるなどに有効活用できる。

【新救助資機材】



可搬式消火装置「武蔵」



「エコルーカス」



【フロント】

バンパー部分に最大引張能力5tの前引きウインチ装置を架装。なお3t用ピンドルックを左右に設けている。

【車両概要】

全長	7.57m
全幅	2.33m
全高	3.31m
ホイールベース	3.75m
車両総重量	11,220kg
乗車定員	6人
総排気量	6,400cc
駆動方式	4輪駆動

INTERVIEW



工作車更新を担当する警防係 消防司令補 小堺一男
「車両だけが良くなるのでは意味がない。扱う我々も進歩が必要」

【上部】

▶照明は4000W相当LED2灯式。300m先までの長距離照射、拡散レンズ使用で広範囲の照射も可能。



◀車体側面上部に、周囲を有効に照射できるLED作業灯を左右に各2個設け、現場での作業が安全に行える。



車体上部には、アルミ製縞板で救助用資機材が収納できる取外し可能な大型ボックスを設けている。

積載救助資機材も
パワーアップ

交通事故現場や自然災害などで使用する油圧救助器具や、狭い

スペースに差し込み重量物を持ち上げるエアーマットなど、資機材の性能が旧救助工作車よりも大幅に上がり、多種多様な災害に対応できるようになりました。

今回配備された救助工作車は、5.5トンシャシーをベースにした軽量でコンパクトなサイズとなっており、当地域の地形に対応すべく走行性を重視した車両となっています。また、旧救助工作車は後輪駆動なのにに対し、積雪・悪路に対応するため4輪駆動とし、車体の構造は鋼板製で、堅牢で耐久性及び走行による振動などに十分に耐える構造となっています。

また、夜間時における照明の確保、車両電圧の低下を防止するため、機装の照明は全てLEDを使用し、明るくなったことで夜間の活動がしやすくなりました。

このような資機材は高性能な反面、使用方法を誤ると大きな事故に繋がります。一人でも多くの要救助者をいち早く、安全に、苦痛を与えないように救出するために、今まで以上に隊員のレベルアップを図り、地域住民の安心安全

旧救助工作車は平成4年に配備され、経過年数が20年となり、車体及び救助資機材が老朽化していることから、近年の高度化する災害に対応すべく更新しました。

今回新しく導入した資機材の一つが、可搬式（持ち運び可能な）消火装置「武蔵」です。この武蔵は空気ボンベ、水タンク、泡消火剤が一体になっていて、隊員が背負うだけで燃焼物に直接泡放射ができ、車両火災、小規模火災や初期消火に効果が期待されます。その他にも交通事故現場で車のドアを切断したり、隙間を広げる能力を両方備える「エコーカス」も採用。大型油圧救助器具のカッターやスプレッターと比べても能力に遜色なく、バッテリータイプのため搬送が容易で、ボタン一つで始動するので、すばやく救助活動に入ることが出来ます。

TOKAMACHI

RESCUE

特集

救助工作車更新 2月1日運用開始

当地域の地形に対応すべく
走行性と耐久性を重視！

救助工作車Ⅱ型
十日町救助1



【後部】



シャシー後部には最大吊り上げ能力2.9tのクレーンを架装。ブームが2ヶ所屈折することにより、さまざまな用途がある。クレーン操作は、電動リモコンと手動の両方で行える。

《統計》 平成 24 年中の火災・救助・救急出動状況をお知らせします

平成 24 年 1 月 1 日 ~ 12 月 31 日各種出動状況
() 内の数字は平成 23 年の数値

【火災】

市町別	火災件数					死傷者数	
	計	建物	林野	車両	その他	死者	負傷者
十日町市	25	14	4		7	1	7
十日町地域	18	10	2		6		4
川西地域	1	1					
中里地域	2	1	1			1	3
松代地域	3	2	1				
松之山地域	1				1		
津南町	3	2	1				
合計	28 (28)	16 (17)	5 (2)	0 (2)	7 (7)	1 (1)	7 (7)

【救助】

市町別	種別	救助件数					計
		火災	交通事故	水難	捜索	その他	
十日町市		0	20	3	4	236	263
津南町		0	1	1	0	51	53
合計		0 (0)	21 (25)	4 (1)	4 (3)	287 (416)	316 (445)

その他には「自然災害」「機械事故」「警戒」「調査」「救急支援」が含まれます。

【救急】

市町別	種別	救急件数					計
		急病	交通事故	一般負傷	転院搬送	その他	
十日町市		1,238	227	370	330	124	2,289
十日町地域		829	147	225	255	76	1,532
川西地域		152	29	58	15	20	274
中里地域		122	28	27	9	14	200
松代地域		60	15	40	41	7	163
松之山地域		75	8	20	10	7	120
津南町		238	31	78	102	21	470
管轄外		9	4	2	0	1	16
合計		1,485 (1,417)	262 (222)	450 (466)	432 (371)	146 (147)	2,775 (2,623)

その他には「火災」「自然災害」「水難」「労働災害」「運動競技」「加害」「自損行為」が含まれます。

管轄外の出動は長野県栄村秋山地区への出動



トンネル内部を視察する消防職員

路や水状況などを確認しました。

救急出動件数大幅増

管内人口の25人に1人が搬送される！

【火災編】

火災件数は前年と同数の28件でその内建物火災が16件発生し、死者が1名となっております。住宅用火災警報器(以下住警器)の管内設置率は約90%(秋の火災予防運動期間中調査値)となっており、住警器による火災の早期発見で火災に至らない事例や、被害が最小限に抑えられた事例もありました。

【救助編】

救助出動件数は、316件で前年と比較して129件の減少となりました。これは、一昨年に発生した、長野県北部地震、新潟・福島豪雨災害の出動件数が多かったことが起因しています。救助出動の種別を見ると交通事故の出動が依然として多くなっています。

【救急編】

救急出動件数は前年に比べ152件増加しています。その中で、急病が70件、転院搬送が60件増加しています。また、65歳以上の高齢者の占める割合が全体の65%となり、高齢化社会の一途をたどっていることが伺われます。平成24年10月30日に運航が開始された新潟県ドクターヘリによる搬送件数については、当管内におけるドクターヘリの要請件数は28件(内、天候不良救急隊現場到着時キャンセルなどが22件)で出動件数は6件となっております。

【管外応援出動編】

平成24年5月24日に発生した、南魚沼市欠之上地内国道253号八箇峠トンネル爆発事故において、十日町地域消防本部は発災日の5月24日から27日までの4日間で、救急応援隊、新潟県広域消防相互応援協定に基づく救助隊、十日町病院DMAT搬送隊、後方支援隊など延べ11隊41名を派遣しました。

今回の事故を受け、当管内で工事が進められている八箇峠トンネル十日町工区側工事現場の視察を6月22日に行い、工事関係者から工事の概要とトンネル内の設備の説明を受け、工事中のトンネル内火災出動等警防計画を策定するとともに、トンネルまでの進入経路や水状況などを確認しました。

十日町地域広域事務組合交付消防団協力事業所一覧

(申請順、事業所名は申請時の名称です)

No.	事業所名	No.	事業所名
1	株式会社 高橋組	24	株式会社 十日町測量
2	株式会社 共立舗装	25	協和建設株式会社
3	株式会社 ドリームパネル	26	苗場建設サービス株式会社
4	東京電力(株)信濃川総合制御所	27	福原車体
5	津南生コン株式会社	28	十日町車検センター協業組合
6	有限会社 幸葉産業	29	株式会社 メイケン
7	株式会社 大阪屋商店	30	株式会社 ぴっとランド
8	株式会社 拓越	31	有限会社 根茂レース
9	特別養護老人ホーム七川荘	32	新潟アライ株式会社
10	有限会社 千歳館	33	津南町農業協同組合
11	松之山オートサービス	34	十日町農業協同組合
12	株式会社 美佐伝	35	株式会社 ナカサト共和
13	上村建設工業株式会社	36	株式会社 共和自動車
14	株式会社 スノーランド	37	株式会社 庭野電機商会
15	宮本警報器(株)	38	有限会社 丸池工務店
16	苗場自動車株式会社	39	株式会社 玉垣製麺所
17	株式会社 丸山工務所	40	株式会社 滝沢印刷
18	株式会社 大海組	41	株式会社 池田鉄工所
19	柳材木店	42	十日町市役所
20	津南地域衛生施設組合	43	津南町役場
21	有限会社サンライス十日町	44	株式会社 鈴木土建
22	財団法人上村病院	45	介護老人福祉施設希望の里松濤園
23	津南町森林組合	46	特別養護老人ホーム 恵福園
		計	46事業所



消防団協力事業所制度をご存じですか？

消防団協力事業所制度は、地域の消防防災力の充実強化と、消防団組織と事業所との連携・協力体制を図ることを目的とし、平成18年11月に総務省消防庁において創設された制度です。十日町地域広域事務組合では、消防団員の確保に協力したり、従業員の消防団活動への配慮をしている事業所などに対して表示証を交付し、事業所は表示マークを自社に掲示することやホームページで公開することで、社会貢献をしている事業所としてイメージアップにつながります。



消防団協力事業所表示制度表示証

【認定基準】

- ① 従業員が消防団員として、相当数入団している事業所
- ② 従業員の消防団活動について積極的に配慮している事業所
- ③ 災害時などに事業所の資器材などを消防団に提供するなど協力をしている事業所
- ④ その他消防団活動に協力することにより、地域の消防防災体制の充実強化に寄与しているなど管理者が特に優良と認める事業所

のいずれかに適合している事業所となっており、事業所は十日町地域広域事務組合管理者に対し申請をすることができます。

お問合せ先
消防本部 総務課消防団係
Tel 025-1757-1155
6



ご出席いただいた5社の関係者と富井団長、山田消防長

十日町市消防団の 勇姿を確認！

1月6日(日)に開催された十日町市消防出初式に、日ごろ消防団活動にご協力いただいている消防団協力事業所の方々をお招きしました。十日町市に事業所がある消防団協力事業所へご案内をし、5社5名のご出席をいただきました。今回の取組は、今年の出初式からの試みで、消防団協力事業所制度のことを知らなかった出席者に対し、各事業所の紹介が行われ、消防団協力事業所制度のことを知ってもらうよい機会になりました。

防災

冬季山岳合同訓練を実施

平成24年度冬季山岳合同救助訓練を1月25日(金)十日町市市之越なかさと清津スキー場において行いました。

この訓練は、冬期間の山岳遭難救助事案に備え、雪崩捜索及び雪上救助における基礎の習熟を高め、実際の災害を想定した訓練を行うことで、出動態勢、必要資機材、関係機関との連携活動などを確認し、万全を期することを目的として行いました。

訓練内容は、前半に雪崩の基礎知識及び警察犬・災害救助犬の特性などの座学、雪崩捜索訓練、雪上救助訓練で基礎的な知識・技術を確認した後、後半の想定訓練ではゲレンデで雪崩が発生し数人が巻き込まれたという想定で、雪崩捜索及び多数傷病者対応訓練を行いました。

訓練には、十日町市、津南町、十日町警察署・嘱託警察犬、災害救助犬十日町、十日町地域消防本部・署から50名と5頭が参加し、各機関が混成・連携しての活動において、技術や情報の共有がいかに大切か再認識いたしました。



想定訓練で埋没者検索をする参加者

救急

え、こんなところにドクターヘリが!? 冬期間のランデブーポイント

十日町地域消防本部管内では冬期間、積雪によりドクターヘリのランデブーポイント(離発着場)が限られることや、指定されたランデブーポイントがスキー大会などで、使用できないなどの問題があったため、冬期間のランデブーポイントの選定が課題となっていました。

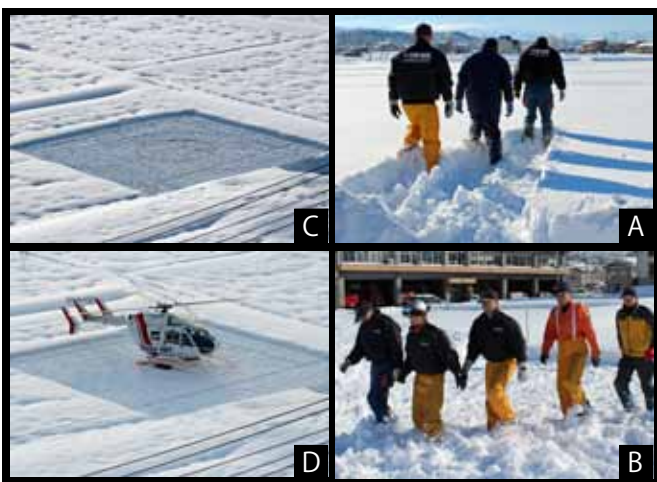
そこで、夏場では不可能な所でも積雪があれば逆にランデブーポイントとして利用できる畑や田んぼがあることに着眼し、積もった雪を踏み固めることによりランデブーポイントとして利用ができるようになり、既に田んぼを利用したドクターヘリ搬送が行われています。



消防本部前の田んぼに着陸するドクターヘリ

職員は勤務日の朝の天候でドクターヘリの運航が可能なときは事前にランデブーポイントの踏み固めを行い、ドクターヘリ搬送に備えています。

※ドクターヘリが離発着する際には、雪が舞い上がることや安全管理のため、周辺道路の交通を一時的に止めることがあります。その際には、消防職員が誘導しますので誘導に従ってくださいようご協力願います。



写真A、B>積もった雪を"かんじき"を履いてヘリの重さに耐えられるように幾方向から何度も踏み固める消防職員
写真C>完成したランデブーポイント
写真D>着陸したドクターヘリ

赤色灯

「119番通報が保留!」

去年の暮れから、今年の1月にかけて立て続けに炎上建物火災があり、尊い命も犠牲になりました。

私達消防職員は1秒でも早く災害現場に駆け付けることを、常日頃から心掛けております。119番通報を受ける通信指令室の電話受付には、一時も欠くことなく365日職員が配置されており、通報が来た瞬間に対応しています。しかし前述のような炎上火災のときは、火災を見た人がどんどん119番通報することで119番通報が重複し、すべての通報に対応できない場合や、一時的に保留にすることがあります。それを「消防署は電話に出るのが遅い!保留にした!」と感じてしまうかもしれません。1番最初の通報の時点で消防車両は出勤しているんだということをご理解して頂きたいと思えます。

今年(み)は(み)年です。身(み)になる、実(み)を結ぶような、よい年でありますように、また地域住民の皆さまが安心安全に過ごせますように私たちは常に努力を惜しみません。

(桑)